

Community Paramedicine

米国で広まりつつある新しい医療の概念



UC San Diego Department of Emergency Medicine

中嶋優子



UC San Diego
HEALTH SYSTEM

Community Paramedicine

- Community = 地域
- Para = 平行する、補助的な、伴う、沿う、傍で
- Medicine = 医療
- Community Paramedic= Community Paramedicineを担うもの

「**地元密着**で**地元特有の医療のギャップ**を
特有の評価を通して**プレホスピタルシステム**
と**パラメディック**が埋める」

- プレホスピタル要員を効果的に活用
→活動範囲を広げることによって地域医療のギャップを埋める
- **予防的医療**(⇒対応的医療に対して)
- プライマリーケア範囲の拡大

Community Paramedicine はまだ新しい

- 1990年代～ ERの混雑、救急車の乱用が問題に
- 救急搬送の10～40%が軽症というスタディが出る
24.1%の搬送件数が緊急を要さない
- その後色々な反対にあう
- Community Healthcare and Emergency Cooperative (CHEC) 2007 → Community Paramedicine Program
- 2010～各地のパイロットプログラムの予算捻出にオバマ大統領がサイン

Community Paramedics

- **地域密着**。Community Paramedics はその地域特有の疾病に対応できるようにトレーニングされる
- 厳格なプロトコールの元に動いている



Community Paramedicの特徴

- 他の職種の領域に踏み込まずに地域医療の **ギャップを埋める**
- 地域の救急医療の効率化に貢献
- 医療へのアクセスが限られている患者さんの架け橋的存在
- 効率の良い治療の選択で医療費の削減

役割

- メディカルコントロール医やかかりつけ医のもとに動く
- 田舎では訪問診療医のような役割
- Outreach
- 予防的医療
(予防接種)
- 創傷管理など
- 家の安全評価



具体的にどんなことをしているか

- **Prehospital**
 - ✓ 現場でのアセスメント、治療
 - ✓ ER以外へのクリニックや精神科への搬送など
 - ✓ 常連患者それぞれへの対応
- **Post-Hospital or Community Health**
 - ✓ 退院慢性期患者のフォローアップ、サポート
 - ✓ 地元組織と連携し予防医療

Community Paramedic になるには

- 地域によって違う
- 資格、免許制度
- 115~150 時間の授業+実地
- 地域特有のトレーニング



Community Paramedic 受験資格・カリキュラム例

例:ミネソタ州のHennepin Technical College (田舎)

- 最低2年間のパラメディック経験者
- 112時間の授業(座学)
- 64時間のインターラクティブクラス(テレビ電話)
- 48時間 オンライン自主学习
- 198時間の臨床実地訓練

Community Paramedicine の目標

- 再入院率を軽減
- 不必要なED受診を減らす
- 患者アウトカムを改善
- 治療の継続性を維持
- 効率的な医療
- 医療費削減

問題点

- 予算の捻出
- いくら医療費削減できたが具体的に測りにくい
→具体的な効果を証明しにくい
- 他の職種の理解
- 田舎のCommunity Paramedic トレーニング
- 医療情報の共有(理解を得る)
- 代替搬送先の確保(理解を得る)
- 判断ミスの可能性
- メディカルコントロールの必要性増大